

頸城、三和、名立の産業建設グループ職員は事実上、木田庁舎に吸収 総務常任委員会と地域協議会とでは違いう市の説明にびっくり

9日、大潟区地域協議会（久保田一雄会長）を傍聴してきました。協議のテーマは新市建設計画の変更と総合事務所のあり方でした。このうち総合事務所の在り方については、先の市議会総務常任委員会でも、「提案するには準備不足だ」などの批判が相次いだ経過があります。それらを踏まえて、市側がどう整理して地域協議会に説明するか注目しました。

ところが、一部で若干の補足をしたものの、基本的には総務常任委員会での提案をそのまま説明していたのです。これにはびっくりしました。地域協議会委員から総務常任委員会での質疑がどうであったかを問われ、土橋総務管理部長は、「次の地域協議会でまとめたものを差し上げる」と答えていましたが、これでは常任委員会審議が地域協議会での審議に生かされません。遅すぎます。



この日の地域協議会では、「説明会の資料をいただきたいが、何かありましたか。何故、当初の参考案が崩されて、三和や頸城が木田庁舎に入るのか理解できない」

「集約総合事務所は人口の多いところになっていくのではないか」「繁忙期には総合事務所に分散させるといいうが、果たして集約して、効率的になるかどうか疑問だ」「産業建設グループ以外のグループを集約しない、考えていないと断言しているのはなぜか」などの質問や意見が出ました。

答弁を聞いていて「えっ」と驚いたのは、三和区、頸城区、名立区の産業建設グループが木田庁舎と一緒にするときの受け入れ体制についての部長発言でした。先の総務常任委員会では、「木田庁舎には産業建設グループはないので、それに対応する内部の受け皿を整えるという認識を持っている。そのことについては職員配置も含めてどのような形が適当であるか内部検討をすすめている」と土橋総務管理部長は答えていました。ところがこの日は、「木田庁舎には、産業建設グループはないので、いっぽうでこれがために受け皿を作ることは今のところ考えていない。いまある課のなかでそれぞれの業務を受けることになる。課を増やすとか再編するとかは考えていない」と答えたのです。これはグループ化ではなく、木田庁舎への事実上の吸収です。この問題は、今後大きな議論を呼ぶことになるでしょう。

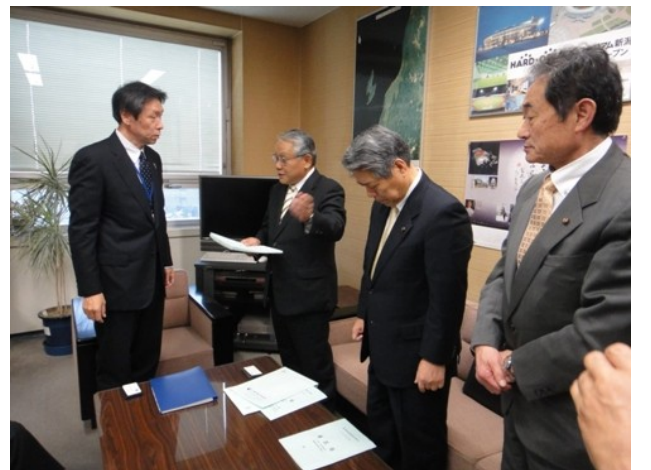
防雪柵設置に向け来年度から用地買収へ 県道新井柿崎線、江島―高橋新田

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は14日、県土木部と交渉を行いました。交渉には同議員連盟に所属する市議10人と上越市選出の県議5人が出席、県側は長谷川

誠土木部副部長と関係課長が対応しました。

宮崎会長などが歩道整備、防雪柵設置などの要望をのべた後、長谷川副部長が「5月に現地調査をしたが、内陸部にしては真っ直ぐな路線という印象を受けた。この路線は早い時期に改良が済んでいたために、今となっては不便な点もある。連盟など地元とキャッチボールし、情報を共有し、理解し合いながら整備を進めていきたい」とのべました。

要望に対する具体的な答弁は岩澤弘和道路建設課長や丸山和弘道路維持課長が行いました。このうち、丸山課長は防雪柵について言及、柿崎区江島と大潟区高橋新田との間は、「23年度に測量・調査が終わっている。来年から用地買収に入り、買収が終わったところから着手してまいりたい。防雪柵はきちっとした恒久的なものと考えている」とのべました。ようやく工事着手が見えるところまで来ました。（写真は長谷川土木部副部長に説明する宮崎会長など）



【ベニバナボロギク】キク科の一年草。やわらかな草で、花は紅色です。なぜか、いつも恥ずかしそうに下を向いています。顔を上げればもっときれいなものと思うのですが、この表情が好きと言う人もいます。

春よ来い 第二二七回 お帰りなさい

相模原市からやってきたキヨコさんは、同級会の連絡をもらってからずっとこの日を待っていたといいます。みんなそうです。旧源中学校の同級会（昭和四〇年卒）は一月一〇日、尾神岳のふもとにあるスカイトピア遊ランドで開催されました。

私が会場に着いたのは開始時間よりも四〇分ほど前。すでに控室には一〇人近い人たちが到着していました。「よつ、久しぶり」「ご苦労さん」ユキミツくん、モリオくん、シンイチくん、カツミくんなどから声をかけてもらいました。

この日の参加者の八割方は関東、関西など遠くからやってきました。控室の入り口付近にいた大潟区在住のミツコさんが、入ってきた同級生に「お帰りなさい」と声をかけています。彼女の母親のような優しい言葉にみんな、うれしそうでした。

同級会が始まったのは午後一時ちょっと過ぎ。会場は畳の大きな部屋です。席に着こうとする時に、「アツツツツ」と言う人の声が聞こえました。すでに還暦を過ぎていて、腰を痛めたり、足を痛めたりしている人が多いんですね。

トラオくんが開会挨拶。そしてすでに亡くなっているミノルくん、コウゾウくん、ミツエさんなど六人の同級生の冥福を祈って全員で黙とうをしました。その後、上野實英先生から挨拶をしていただきました。

「膝があれなもんで立たないで挨拶を……」と先生が言うと、誰かが「立たないでいいよ」と声をかけました。先生は、「みなさんと再会すると涙が出てきます。故郷をいつまでも忘れないで過ごしていただきたい。趣味や生きがいを持ち、筋力を鍛えることに心がけてください。そしてぜひ七七歳（の同級会）をめざしてがんばってほしい。その時はたぶん僕はいないので、黙とうしてください」と挨拶されました。最後に笑いをとって終わる、相変わらず話上手な先生でした。

続いて全員による自己紹介と近況報告。卒業以来初めて同級会に参加し、四七年ぶりの再会をしたヒサミさん、彼女は対馬市からやってきました。「朝鮮半島の南で漁師をやっています」と言うと、「エーッ」という驚きの声が上がりました。看護師をやっているカズコさんは会場の近くの尾神生まれ。「そろそろ定年しようと思っています。さつき、昔住んでいた自分の家まで行ってきました」と語りました。懐かしかったんでしょうね、彼女はすでに他人に渡った家の周りをぐるぐる歩いて来たといいます。

同級生が歩んできた人生は様々です。一〇年ほど前に生家に戻ってきたユミコさんは美声で自己紹介。「ユミコデゴザイマス。ヨクイラツシヤイマシター、ハイハイ、バスガイドやっていました。いまは二人目の旦那とすばらしい田舎暮らしをしています」と楽しそうに語りました。一方、Aくん、結婚生活はわずか一年ほどで終わってしまいました。「一一年前にみんなと会った時には、桜が咲いたと思ったがだでも、すぐに散ってしまいました。おふくろも死にました」と涙ぐみました。あとで柿崎のカオルさんが言いました。「Aくん、泣きながらお店に来てくんだったけど、どうしてもあげられなくてね……」。

中学校時代の同級会は二一年ぶり。たつぷり語り合いました。「春風そよぐ山峡の……」という校歌を歌ったのは中学校卒業以来かも知れません。うれしいときはもちろんのこと、かなしいときも、さみしいときも同級生に会うと元気が出ます。みんなの前で涙ぐんだAくんも最後は笑顔でした。おーい、みんな、また来てくれよ。

頸城「だんらん」を訪問

頸城区にある「グループホームだんらん」をこのほど訪問してきました。ここの「だんらん」は9年前にスタート。当初のNPO法人から株式会社に変わりましたが、建物は新築されたばかりで、とてもきれい。

私の「だんらん」の訪問は今回が初めて。短い時間ではありましたが、入所されている人たちの様子をうかがうことができました。中では、ちょうど朗読ボランティアの皆さんが訪問中（写真右）でした。施設概要や実施しているサービスについては村松卓弥さんから説明していただきました。入所されている人、通っておられる人、そのほとんどは旧頸北地区出身の人たちでした。サービスの説明で初めて聞いたのは、ここでは、寝たままでも大丈夫なストレッチャー送迎をやって



いるということ、これにはびっくりでした。家庭で訪問サービスを受けていた人たちが、外に出て他の人と交流できるというのはすばらしい。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月7日(水)	11月14日(水)
上越南消防署	0.040	0.046
上越北消防署	0.050	0.060
新井消防署	0.063	0.070
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.047	0.067
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.046	0.080

音楽発表会のような祝賀会
吉川区大乘寺のコミュニティセンター竣工式・祝賀会に招かれました。ここには芸達者な住民が大勢いて、祝賀会がすごかった。尺八演奏あり、フルート演奏あり、ピアノもギターも。さらに民謡（写真は関澤秀太郎さん）、謡曲と続き、まるで音楽発表会のような祝賀会でした。



春よ来い 第二二七回 お帰りなさい

相模原市からやってきたキヨコさんは、同級会の連絡をもらってからずっとこの日を待っていたといいます。みんなそうです。旧源中学校の同級会（昭和四〇年卒）は一月一〇日、尾神岳のふもとにあるスカイトピア遊ランドで開催されました。

私が会場に着いたのは開始時間よりも四〇分ほど前。すでに控室には一〇人近い人たちが到着していました。「よつ、久しぶり」「ご苦労さん」ユキミツくんやモリオくんなどから声をかけてもらいました。

この日の参加者の八割方は関東、関西など遠くからやってきました。控室の入り口付近にいた大潟区在住のミツコさんが、入ってきた同級生に「お帰りなさい」と声をかけています。彼女の母親のような優しい言葉にみんな、うれしそうでした。

同級会が始まったのは午後一時ちょっと過ぎ。会場は畳の大きな部屋です。席に着こうとする時に、「アツツツツ」と言う人の声が聞こえました。すでに還暦を過ぎていて、腰を痛めたり、足を痛めたりしている人が多いんですね。

トラオくんが開会挨拶。そしてすでに亡くなっているミノルくん、コウゾウくん、ミツエさんなど六人の同級生の冥福を祈って全員で黙とうをしました。その後、上野實英先生から挨拶をしていただきました。

「膝があれなもんで立たないで挨拶を……」と先生が言うと、誰かが「立たないでいいよ」と声をかけました。先生は、「みなさんと再会すると涙が出てきます。故郷をいつまでも忘れないで過ごしていただきたい。趣味や生きがいを持ち、筋力を鍛えることに心がけてください。そしてぜひ七七歳（の同級会）をめざしてがんばってほしい。その時はたぶん僕はいないので、黙とうしてください」と挨拶されました。最後に笑いをとって終わる、相変わらず話上手な先生でした。

続いて全員による自己紹介と近況報告。卒業以来初めて同級会に参加し、四七年ぶりの再会をしたヒサミさん、彼女は対馬市からやってきました。「朝鮮半島の南で漁師をやっています」と言うと、「エーッ」という驚きの声が上がりました。看護師をやっているカズコさんは会場の近くの尾神生まれ。「そろそろ定年しようと思っています。さつき、昔住んでいた自分の家まで行ってきました」と語りました。懐かしかったんでしょうね、彼女はすでに他人に渡った家の周りをぐるぐる歩いて来たといいます。

同級生が歩んできた人生は様々です。一〇年ほど前に生家に戻ってきたユミコさんは美声で自己紹介。「ユミコデゴザイマス。ヨクイラツシヤイマシター、ハイハイ、バスガイドやっていました。いまは二人目の旦那とすばらしい田舎暮らしをしています」と楽しそうに語りました。一方、Aくん、結婚生活はわずか一年ほどで終わってしまいました。「一一年前にみんなと会った時には、桜が咲いたと思ったがだでも、すぐに散ってしまいました。おふくろも死にました」と涙ぐみました。あとで柿崎のカオルさんが言いました。「Aくん、泣きながらお店に来てくんだったけど、どうしてもあげられなくてね……」。

中学校時代の同級会は二一年ぶり。たつぷり語り合いました。「春風そよぐ山峡の……」という校歌を歌ったのは中学校卒業以来かも知れません。うれしいときはもちろんのこと、かなしいときも、さみしいときも同級生に会うと元気が出ます。みんなの前で涙ぐんだAくんも最後は笑顔でした。おーい、みんな、また来てくれよ。

頸城「だんらん」を訪問

頸城区にある「グループホームだんらん」をこのほど訪問してきました。ここの「だんらん」は9年前にスタート。NPO法人から株式会社になっていますが、建物は最近新築されたばかりで、とてもきれい。

「だんらん」の訪問は今回が初めてです。短い時間ではありましたが、入所されている人たちの様子をうかがうことができました。中では、ちょうど朗読ボランティアの皆さんが訪問中（写真右）でした。

施設概要や実施しているサービスについては村松卓弥さんから説明していただきました。入所されている



人、通っておられる人、そのほとんどは旧頸北地区出身の人たちでした。サービスの説明で初めて聞いたのは、ここでは、寝たままでも大丈夫なストレッチャー送迎をやって

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月7日(水)	11月14日(水)
上越南消防署	0.040	0.046
上越北消防署	0.050	0.060
新井消防署	0.063	0.070
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.047	0.067
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.046	0.080



宮城県登米市議会の皆さんと15日、中山間地対策などで意見交換しました。上越市議会議場での記念写真、私は右から5人目。

春よ来い 第二二七回 お帰りなさい

相模原市からやってきたキヨコさんは、同級会の連絡をもらってからずっとこの日を待っていたといいます。みんなそうです。旧源中学校の同級会（昭和四〇年卒）は一月一日、尾神岳のふもとにあるスカイトピア遊ランドで開催されました。私が会場に着いたのは開始時間よりも四〇分ほど前。すでに控室には一〇人近い人たちが到着していました。「よつ、久しぶり」「ご苦労さん」ユキミツくんやモリオくんなどから声をかけてもらいました。

この日の参加者の八割方は関東、関西など遠くからやってきました。控室の入り口付近にいた大瀧区在住のミツコさんが、入ってきた同級生に「お帰りなさい」と声をかけています。彼女の母親のような優しい言葉にみんな、うれしそうでした。

同級会が始まったのは午後一時ちょっと過ぎ。会場は畳の大きな部屋です。席に着こうとする時に、「アツツツツ」と言う人の声が聞こえました。すでに還暦を過ぎていて、腰を痛めたり、足を痛めたりしている人が多いですね。

トラオくんが開会挨拶。そしてすでに亡くなっているミノルくん、コウゾウくん、ミツエさんなど六人の同級生の冥福を祈って全員で黙とうをしました。その後、上野實英先生から挨拶をしていただきました。

「膝があれなもんで立たないで挨拶を……」と先生が言うと、誰かが「立たないでいいよ」と声をかけました。先生は、「みなさんと再会すると涙が出てきます。故郷をいつまでも忘れないで過ごしていただきたい。趣味や生きがいを持ち、筋力を鍛えることに心がけてください。そしてぜひ七七歳（の同級会）をめざしてがんばってほしい。その時はたぶん僕はいないので、黙とうしてください」と挨拶されました。最後に笑いをとって終わる、相変わらず話上手な先生でした。

続いて全員による自己紹介と近況報告。卒業以来初めて同級会に参加し、四七年ぶりの再会をしたヒサミさん、彼女は対馬市からやってきました。「朝鮮半島の南で漁師をやっています」と言うと、「エーッ」という驚きの声が上がりました。看護師をやっているカズコさんは会場の近くの尾神生まれ。「そろそろ定年しようと思っています。さつき、昔住んでいた自分の家まで行ってきました」と語りました。懐かしかったんでしょうね、彼女はすでに他人に渡った家の周りをぐるぐると歩いて来たといいます。

同級生が歩んできた人生は様々です。一〇年ほど前に生家に戻ってきたユミコさんは美声で自己紹介。「ユミコデゴザイマス。ヨクイラツシヤイマシター、ハイハイ、バスガイドやっていました。いまは二人目の旦那とすばらしい田舎暮らしをしています」と楽しそうに語りました。一方、Aくん、結婚生活はわずか一年ほどで終わってしまいました。「一一年前にみんなと会った時には、桜が咲いたと思ったがだでも、すぐに散ってしまいました。おふくろも死にました」と涙ぐみました。あとで柿崎のカオルさんが言いました。「Aくん、泣きながらお店に来てくんだったけど、どうしてもあげられなくてね……」。

中学校時代の同級会は二一年ぶり。たつぷり語り合いました。「春風そよぐ山峡の……」という校歌を歌ったのは中学校卒業以来かも知れません。うれしいときはもちろんのこと、かなしいときも、さみしいときも同級生に会うと元気が出ます。みんなの前で涙ぐんだAくんも最後は笑顔でした。おーい、みんな、また来てくれよ。

新市建設計画変更案には付帯意見付きで同意へ

柿崎区地域協議会（佐藤健会長）が16日開かれ、新市建設計画の変更案などについて活発な議論が行われました。

新市建設計画の変更案については

市長からの諮問です。東日本大震災や長野県北部地震の発生に伴い国が法律の改正を行い、合併特例債の発行期限が延長されたことを受けて、合併協議会で決めた新市建設計画の一部を変更するので地域協議会の意見を聴きたいというものです。

市が示した変更案の中には「し尿処理施設増設整備事業」など7事業を削除し、新たに（仮称）厚生産業会館建設事業、新水族館建設事業、上越斎場建設事業など5事業を追加することが含まれています。

この追加をめぐり、「計画変更の背景を考えると合致しない事業があるのではないか」「災害対応中心にやるべきだ」「これまでいろんな事業を切ってきた。（新たに）こうしたものを造る整合性はないのではないか。もっと13区に目を向けてほしい」などの批判的意見が相次ぎました。特に（仮称）厚生産業会館建設に対する批判が多かったですね。

最終的には柿崎区地域協議会として変更案には同意するものの、付帯意見をつけることになりました。高田区地域協議会が市の示した（仮称）厚生産業会館の基本構想案について「不適當」との答申を出しているだけに、付帯意見がどんな内容で書かれるのか注目です。

黒川工業団地にメガソーラー建設の動き

黒川工業団地にメガソーラー（大規模な太陽光発電施設）建設の動きがあることが地域協議会で明らかになりました。これは宮澤副会長の質問によって明らかになったもの。

総合事務所側は答弁で、「10月に産業立地課から話があった。メガソーラー関係企業が候補地を探していて、黒川工業団地もそのひとつになっている。企業は現地を確認している。まだ正式決定ではないが決まったら地元と相談させてもらいたい」とのべていました。

会議後、地元のある人に聞いたら、「どんな計画か早く知りたい」という声が出ていました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	11月7日(水)	11月14日(水)
上越南消防署	0.040	0.046
上越北消防署	0.050	0.060
新井消防署	0.063	0.070
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.047	0.067
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.046	0.080